

第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

イベント名	総合的水災害防止に関するシンポジウム
主催者	国土交通省河川局、 (独)土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター(ICHARM)
開催日	2007年12月 <input type="checkbox"/> 1日 <input checked="" type="checkbox"/> 2日 <input type="checkbox"/> 3日 <input type="checkbox"/> 4日 <input type="checkbox"/> 5日
開催時間	13:00～18:00
開催場所	<input checked="" type="checkbox"/> 別府市内 <input type="checkbox"/> 大分県内 <input type="checkbox"/> その他
会場名	別府市社会福祉会館
参加人数	105名

開催概要（900字以内）

近年、地球温暖化に起因する気候変動による水害、土砂災害、高潮災害等の頻発化や激甚化などの懸念が指摘されています。こうした中で、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第4次評価報告書には、温暖化の緩和策には限界があり、温暖化に伴う様々な影響への適応策を講じていくことが重要とされている。

シンポジウムの第1部では、水サミットに参加する国際機関や学識界からの招待者をパネリストに迎え、懸念される気候変動による水関連災害への影響や実施すべき適応策、気候変動による影響に対して国の果たすべき役割、国際的な協力や日本が貢献すべき事項について幅広い議論を行った。第2部では、気候変動によるリスク増加を含んだ水関連災害の防止にむけ、各国における水関連災害の現状と対応、国際機関としての水関連災害への取り組み、気候変動と水災害管理のあり方について、国際機関や行政の代表から発表が行われるとともに、会場の参加者を交えて意見交換が行われた。

当日とりまとめられた提言は、サミットプログラムの一環として開催された優先テーマ「水関連災害管理」セッションにおいて報告されるとともに、本セッションの議論とあわせて、気候変動への対応が緊急の課題であること、ハード、ソフトの適切な組み合わせによる総合的な努力が必要であること等、今後の地域の水関連のポリシーに係る主要なテーマについて、サミット参加者の間で共通の合意が得られた。



日本水フォーラムに期待すること（600字以内）

その他（オープンイベントを開催した感想、今後の予定など、600字以内）

シンポジウムには予想を上回る人数の方々に熱心に聴講を頂き、総合的な水災害管理の必要性とともに気候変動による水関連災害への悪影響の防止に強い関心が寄せられていることを再認識した。

今後、気候変動問題は、G8北海道洞爺湖サミットにおいても、主要議題として取り上げられると考えられ、引き続き水関連災害防止に向けた取り組みの重要性を積極的に情報発信して参りたい。

